

2024.3  
(公社)富山県薬剤師会  
広報誌

とみ やま  
富 薬

3号

第46巻  
No.416



ジンチョウゲ *Daphne odora* Thunb.

(ジンチョウゲ科 *Thymelaeaceae*)

**生薬** ズイコウカ（瑞香花） 開花期（3-4月）に花を採取し、陽乾する。

**成分** 精油：linalool, hexenal, citronellol, nerol 等、クマリン類：daphnetin, daphnin 等。

**効能** 中国では民間薬として咽喉の腫れ痛み、歯痛、リウマチ痛、初期の乳がん用いる。日本の民間薬では有毒植物であることもあり、用いることはない。

元富山県薬事研究所  
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

## 〇〇表紙について〇〇



中国原産の常緑低木で、庭園に植えられ、高さは1 m位になります。幹は直立してよく分枝し、枝は折っても樹皮の韌皮繊維が長くて丈夫なため折れにくい。同科のガンピ (*Diplomorpha sikokiana*) やミツマタ (*Edgeworthia chrysantha*) の丈夫な繊維は和紙の原料として用いられています。葉は互生し短い葉柄があり、倒皮針形で全縁、暗緑色、肉厚で光沢があります。3 - 4月頃前年枝の先に10 - 20花を頭状に咲かせます。強い香りがあり、花弁がなく、花弁に見える萼は筒状で、口の部分は4裂し、外面は紅紫色、内面は白色です。他に真っ白な花を咲かせるシロバナジンチョウゲ (*f. alba*) や花の外側が薄い紅色、内側が白色をしているウスイロジンチョウゲ (*f. rosacea*) などがあります。結実することは稀で、わが国には雄株のみが渡来したと考えられていましたが、8本の雄蕊と1本の雌蕊をもった立派な両性花であり、不稔の原因は分っていません。国内に自生する同属植物には関東以西に分布し、雌雄異株で常緑小低木、白色花のコショウノキ (*D. kiusiana*) や福島県以南に分布し落葉低木で雌雄異株、黄色花のオニシバリ (*D. pseudomezereum*)、本州中部以北に自生する落葉低木で雌雄異株、黄色花のナニワズ (*D. jezoensis*) などがあります。

原産地の中国においては『本草綱目』(1578)に「南方の州群の山中にある。枝と幹は婆娑たるもので、條が柔らかく葉が厚い。四季を通じて青く茂り、冬、春の交に花が簇り咲く」と、また「廬山(江西省)に産したもので、宋時代(960 - 1279)には民家で栽培し、始めて其名が世に著れた」と中国南部の産であること、常緑であること、宋の時代から植栽されていたことなどに触れています。薬効も記され「急喉風(扁桃腺炎)には白花のものを水に研って灌ぐ」とあります。『本草綱目拾遺』(1871)には「乳源(広東省)に白瑞香が多い。冬期に盛んに開いて雪のようだ。故に雪花と名ける」、また「乾いたものを薬に入れて用いる…頭目を清利する。歯痛には含むが宜し」とシロバナジンチョウゲと薬効について記されています。

日本に渡ったのは『尺素往来』(1534)に「春の花は…牡丹(*Paeonia suffruticosa*)、沈丁花…」とあり、室町時代には渡来していたと考えられています。ここで云う「沈丁花」は『和漢三才』(1713)に「其の香り烈しく、沈香(*Aquilaria agallocha*)、丁香(*Syzygium aromaticum*)相兼ねる故、俗に沈丁花と曰う」と日本で名づけられた和名であることが記されています。同時代の園芸書『花壇地錦抄』(1695)にも「沈丁花(木春初中)うす紫の花咲く。一所にあつまり咲てしかもいみしき。匂あり。葉もモッコク(*Ternstroemia gymnanthera*)のごとくにてよし。又花の白きも有り」と専ら園芸用としての記載があります。

ヨーロッパに園芸植物として導入されたのは1771年頃です。ヨーロッパでは自生する同属植物が紀元前から薬として利用されていたようです。ディオスコリデス(40 - 90)の『薬物誌』に「Daphnoides」の名で収載されている「セイヨウオニシバリ」(*D. mezereum*)は「低木で多数の枝をもつが、それらは紐のようにしなやかであり、中程から先端にかけて葉をつける。茎の皮はねばねばしており、葉はゲッケイジュ(*Laurus nobilis*)に似ている…花は白く、実は熟すると黒くなる。…乾燥させた葉あるいは新葉を服用させると、腹部の粘液物質を排出させる。また嘔吐を引き起こし、月経を誘発する。これを噛むと頭部の粘液物質を排出させ、くしゃみを催させる。実を11粒ほど服用すれば便通を促す」とゲッケイジュに似た葉で、ほぼジンチョウゲに近い形態と薬用に利用することを記しています。属学名の*Daphne*はゲッケイジュの古名で、ギリシャ神話の中でニンフ・ダフネがアポロンから逃れるためにその姿をゲッケイジュに変えたことから名づけられたと伝えられています。(村上守一 記)